

令和元年8月31日

令和元年度第3回アーバンデザインセミナー実績報告書

(1) 開催日時

令和元年8月21日(水) 18時30分～20時

参加人数：20名

(2) テーマ

シリーズ：食とまちづくり(第2回)

「食の風景から考えるまちづくり」

(3) 話題提供者

百武ひろ子(県立広島大学大学院経営管理研究科 教授)

(4) 話題の概要

● 自己紹介

- 景観条例に携わった際にいい景観は誰が決めるのか考えた時、そこに住んでいる人の考えが大切なのではないかということになり、市民参加や合意形成への関心につながった。
- アメリカは市民参加が進んでいた所以勉強をしに行った。
- 合意形成のプロセスを導入し、多様な人々とまちづくりをしている。ゴミ問題や観光の問題など、さまざまな現場で実践している。
- 大学では合意形成をマネジメントできる人を育てている。

● 未来はどうやってつくるのか？

- あってほしい未来の暮らしを描き、その未来を実現するために今何をしたらいいのか考える。(バックキャストイング)

● 3つのP

- 未来のまちづくりを3つのPで考えてみる。
- **PLAYER → PLACE → PRIORITY**

● **PLAYER**

- 人口減少・超高齢化により、担い手が少なくなる。まちづくりは専門家だけに任せるのではなく、まちを使うユーザーである市民・企業との協働が当たり前

になっていく。

- 合意形成とは、異なる「意（思い）」を合わせて、ひとつの形を成すということ。AとBという異なる思いがあった時に、単に足して二で割るのではなく、AとBの思いを踏まえて、Cという新たな価値を生み出すことを目指す。
- イノベーションは多様な人材を生かすことによって生まれる。ただし、ただ単に多様な人材を集めればイノベーションが起こるわけではない。（イノベーション・マネジメントの必要性）
- 公私ボーダレス化の進行。稼ぐ公共、及び営利企業の公共性が求められている。
- AI やロボットの活用によって、人が担うのは創造性、協調性、柔軟性が求められるような業務へシフト。

● PLACE

- これまでは仕事によって住む場所が規定されていたが、これからはどこでも仕事ができるようになる。本当に住みたい場所に住むようになる。
- 非日常ではなく日常の豊かさが大事。
- 魅力的なライフスタイルを発信できる地域が生き残る。
- SNS の発展などにより、地域が直接世界とつながれる。都市か田舎かではなく、個性が重要となる。

● PRIORITY

- 今までは豊かであることはモノを持つことだったが、これからは何を持つかではなく、どれほど豊かな時間を持てたかが重要となる。
- 多様な人たちが自分にとっての心地よさをそれぞれ追求。
- 個人や個々の企業の利益の追求より、これからは自分も「みんなも」共に良くなる方法を見出すことにシフト。

● 食はまちづくりの核

- 地域の個性ある食文化は魅力的な地域ブランド
- 一次産業を大事にすることで地域の環境を保全
- 食を通じた地域の健康づくり
- 食がつなぐコミュニティ
- 食品産業は重要な地域の産業

● 未来の食の風景を予測するキーワード

- 1、家族化：familization（造語）
- 2、まちの中心は、美しい市「場」



- 3、時間をかけた地域の真っ当な食

(5) ワークショップ

- 話題提供頂きながら、考える時間や意見交換の時間を挟みつつの進行であった。以下の6つの質問について各自の答えを付箋に書き、最後は班内で考えをシェアした。
 - Q.1 あなたのまちの未来を支える人、キーマンはどんな人ですか？
 - Q.2 あなたのまちには、未来のライフスタイルをつくる世界に誇れる種はありますか？
 - Q.3 あなたのまちの未来の「心地よさ」ってなんですか？
 - Q.4 あなたのまちの未来を拓く食×『 』
『 』に入るキーワードは？
 - Q.5 あなたがまちの人と共に食べたい食のキーワードは？
 - Q.6 今までのキーワードを踏まえて
未来の「食の風景」を描くための3つのキーワードを考えてみましょう。
(みんなで考えてみよう！)

- Q.6 について班内で話し合い、班として選定した3つのキーワードを全体に発表した。全4班から以下のようなキーワードが挙げられた。
 - 1班目：スローフード、非日常性、おにぎり
 - 2班目：心、共、場
 - 3班目：家庭、風景、熱意
 - 4班目：水辺、地元新鮮野菜、自然体



(6) まとめ

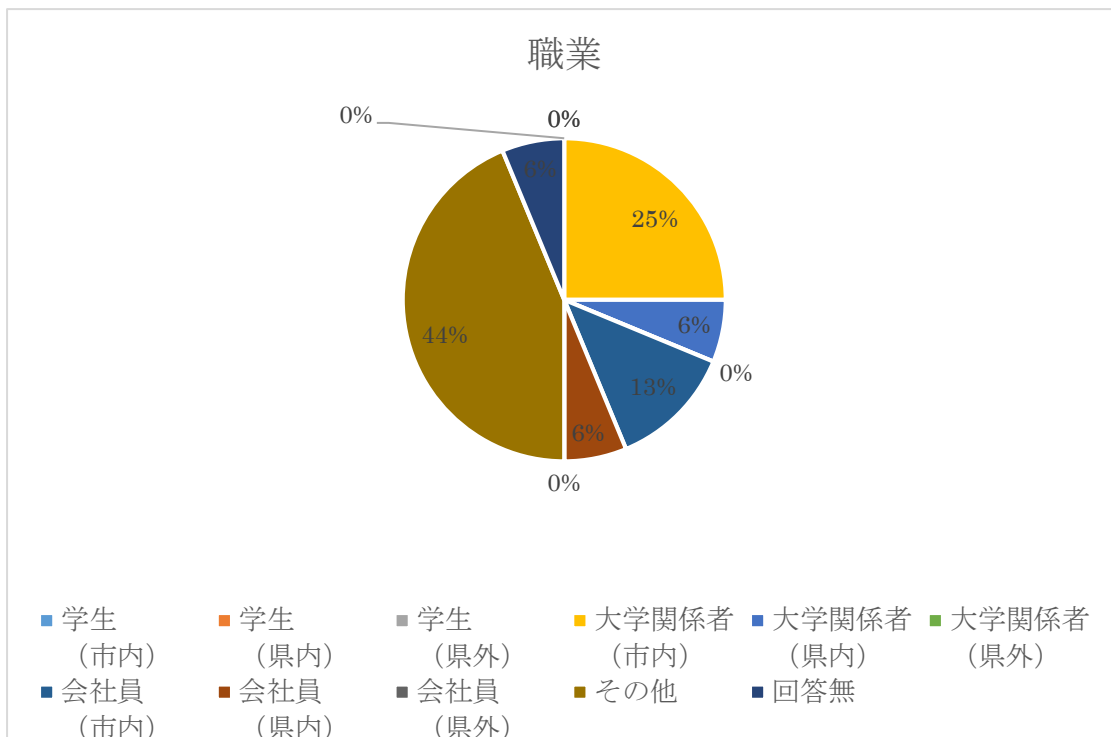
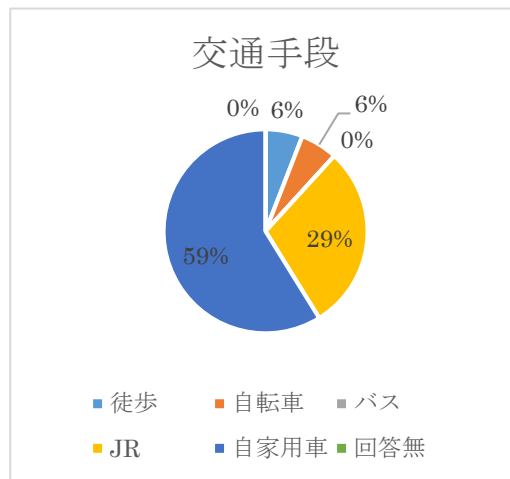
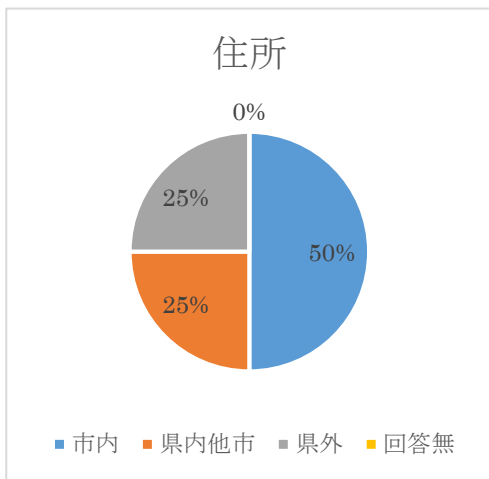
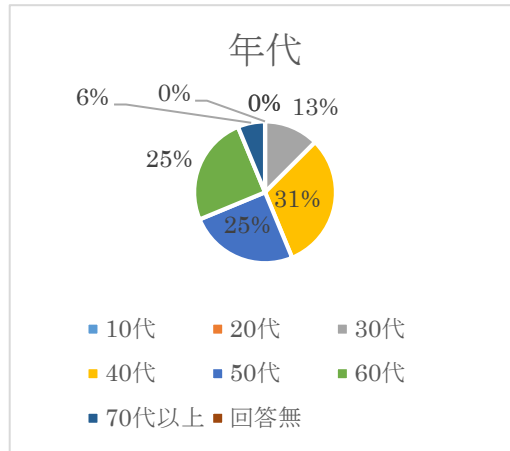
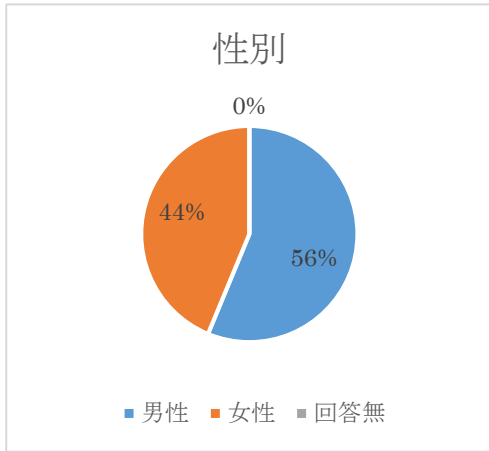
今回の講義では、未来のまちづくりについて3つのPから学んだ。随時参加者自身が考えて答えを書く時間が設けてあり、自分事として講義をとらえることができる内容だった。

それぞれが考えたり、全体でシェアする中でブラッシュアップされたりした意見・アイデアを、今後も思い描きながら、未来のまちを考えて実践していくことが期待される。

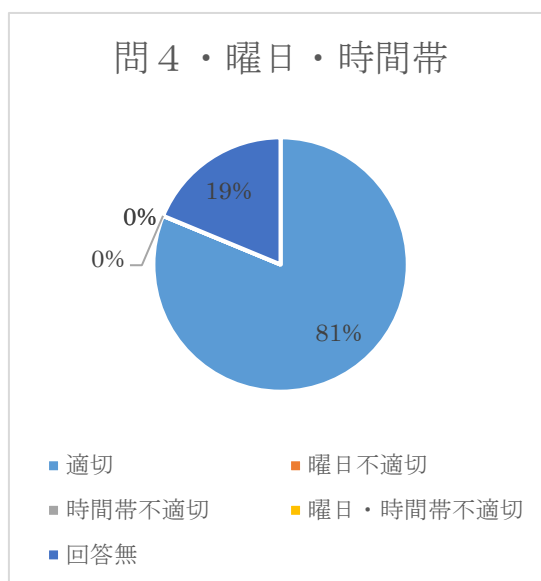
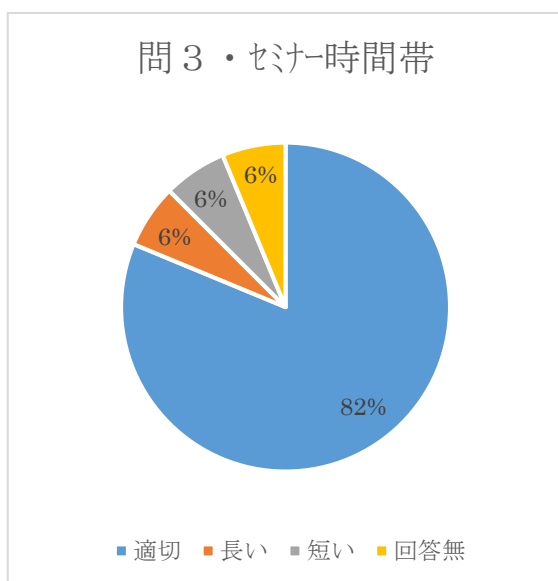
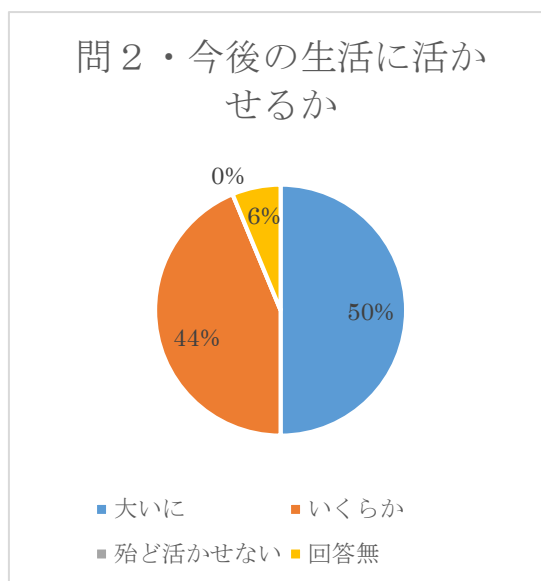
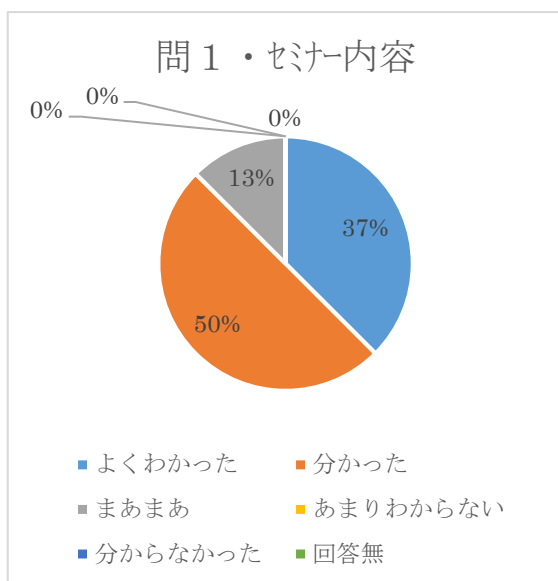
(7) アンケートまとめ

① 参加者属性

参加者20名のうち、アンケートに回答いただいた方は16名、回答率は80%だった。



② 内容について



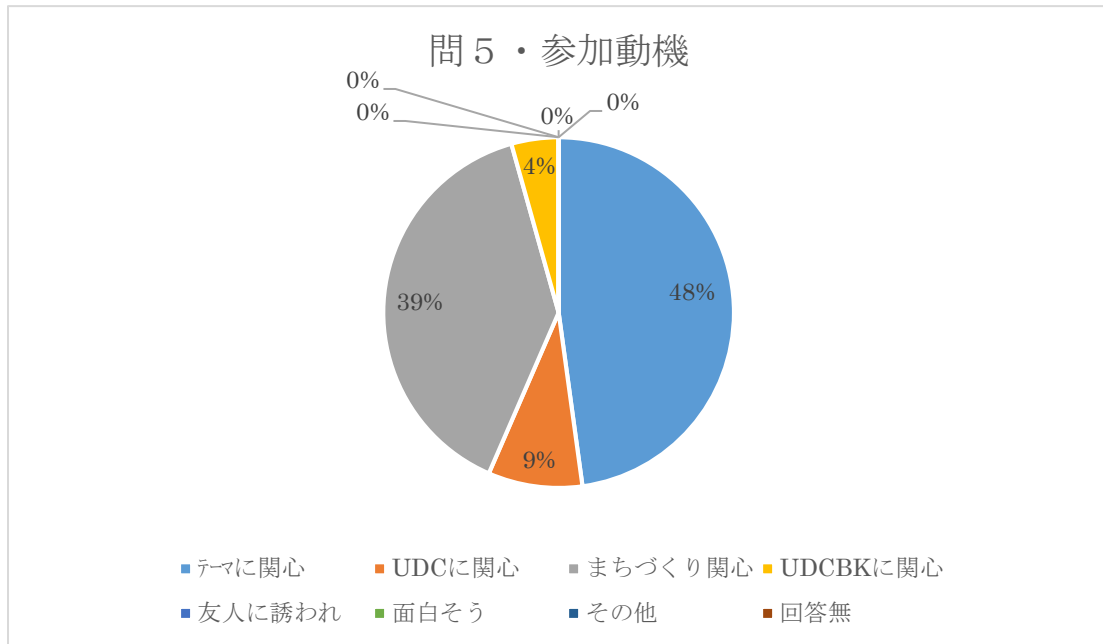
【自由記入欄回答】

問3. 時間はどうでしたか。

なし

問4. 開催曜日、開催時間は適切でしたか。

なし



【自由記入欄回答】

問5. 今回参加した動機についてお聞かせください。それぞれに関心のあるテーマについて御自由に記載ください。

- ・まちづくり.ひとづくり（60代男性）
- ・合意形成マネジメントとイノベーションマネジメントが興味深かった（50代男性）

【自由記入欄回答】

問6. 今回、印象に残ったこととその理由をお聞かせください。

- ・ワークショップが興味深い（50代男性）
- ・いままで食について考えていなかったなので、いい機会になった（50代男性）
- ・未来の状態をイメージし、今何をすべきかを考える「バックキャスト」の考え方は、まちづくり構想を行う上で良い手法だと思った（60代男性）
- ・普段使っていない脳を刺激頂きました。ありがとうございました(70代以上男性)
- ・協働（40代男性）